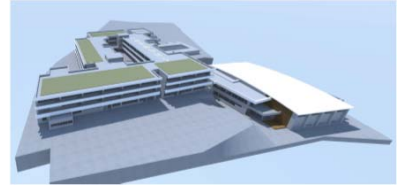




1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	上菅田笹の丘小学校	階数	地上4F
建設地	横浜市保土ヶ谷区上菅田町134番地	構造	RC造
用途地域	第一種低層住居専用地域、防火指定なし	平均居住人員	1,000人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000時間/年(想定値)
建物用途	事務所、学校、集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年3月 予定	評価の実施日	2020年8月7日
敷地面積	15,780 m <sup>2</sup>	作成者	柳澤思真
建築面積	4,277 m <sup>2</sup>	確認日	2020年8月7日
延床面積	9,939 m <sup>2</sup>	確認者	柳澤思真



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (92 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 87% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の 87%

④上記+ 87%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q 環境品質** Q のスコア = 3.3

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.7

**LR 環境負荷低減性** LR のスコア = 3.5

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> 大規模校としての明快な動線計画、コンパクトな裏表のない配置計画 ・敷地の中で校舎棟を東端に寄せ、屋内運動場、コミュニティハウス、プールの配置により、動線をコンパクトにし、各施設の連携を高め、グラウンド面積を出来るだけ確保している。 ・児童の出入りを円滑にするために中庭を設け、行き止まりがなく、裏側を作らない安心な配置計画としている。		敷地の高低差を活かし、校舎東側1階には給食室、多目的室(集会発表)など天井高さを活かせる室を配置している。また最も敷地の低い場所に屋内運動場を配置することで、学校全体のボリュームを抑えている。
<b>Q1 室内環境</b> 全ての普通教室が南東面および南面を向いており、良好な採光、通風が確保されている。換気、空調、照明計画において、通常の方式とし問題のないよう配慮している。また特別教室は西側のグラウンド側に配置し普通教室と距離をとることで音や振動などにも配慮している。	<b>Q2 サービス性能</b> 建物に求められる機能を明確にし、内装計画の段階でインテリリアパースなども用い、機能を促進するための取り組みを具体的に示している。維持管理しやすいよう清掃に関わるスペースや機器設備を配置している。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 高低差のある敷地を活かしてできるだけ空地や風の通り道を確保する配置計画とし、敷地内の既存植物(既存桜並木)などの環境の保存、屋上緑化を積極的に行い、敷地の植栽条件に応じた緑地計画としている。
<b>LR1 エネルギー</b> 外皮の熱負荷を抑制する自然エネルギーをできるだけ有効に使い、また、設備システムの高効率化を図る計画としている。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水や雨水利用を行い、水資源の保護に努めている。また、できるだけリサイクル材を使用し、資源の再利用がしやすい計画としている。解体時におけるリサイクルを促進するため、解体時に容易に分別可能にしている。	<b>LR3 敷地外環境</b> 地表面の被覆材に配慮し、屋根面の緑化を行い、敷地外への熱的影響を低減する対策としている。廃棄物処理負荷抑制のため、分別回収を推進するためのゴミ一時集積所を計画している。校庭からの砂塵に対してスプリンクラーを設置し抑制している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照された

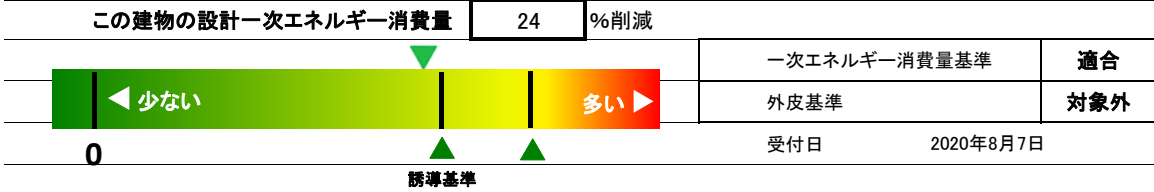


### 4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。 建物名称 **上菅田笹の丘小学校**

#### 建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) **【省エネルギー性能】 3**

##### ■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



##### ■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

①BPIm=0.71

③BEIm=0.76

#### 健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) **【快適・働きやすさ】 3**

##### ■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

⑩教室昼光率2.5%以上。

⑪F☆☆☆☆の使用。教室自然換気開口 床面積の1/10以上確保。

##### ■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

⑫求められる機能を明確にし、内装計画の段階でパースなども用い、その機能を促進するための取り組みを具体的に示している。

##### ■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

⑭地表面の緑化、屋根面の緑化等、敷地内温熱環境の向上を図っている。

#### 防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) **【防災】 3**

##### ■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

⑯床20年、壁30年、天井30年の耐用年数がある部材を用いている。

⑰節水器具の採用や、配管系統の区分けを行っている。

#### 地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) **【地域・まちづくり】 4**

##### ■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

⑱敷地内の既存植物(既存桜並木)などの環境の保存、屋上緑化を積極的に行い、敷地の植栽条件に応じた緑地計画としている。

⑳コミュニティハウスを設置し、外部にテラスを設け、地域住民が利用しやすい計画としている。

太陽光発電などの導入	環境配慮技術の導入 (太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)
太陽光利用	雨水等利用設備
エネルギーマネジメントシステム導入	
— —	



CASBEE横浜2017年版v.1.7

上菅田笹の丘小学校

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質										3.3
Q1 室内環境										3.0
1 音環境				3.0	0.15	-	-	3.0		
1.1 騒音				3.0	0.40	-	-	-		
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-	-		
1	開口部遮音性能			3.0	0.40	-	-	-		
2	界壁遮音性能			3.0	0.27	-	-	-		
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	0.17	-	-	-		
4	界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	0.17	-	-	-		
1.3 吸音				3.0	0.20	-	-	-		
2 温熱環境				2.4	0.35	-	-	2.4		
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-	-		
1	室温	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.56	-	-	-		
2	外皮性能	快適・働きやすさ 健康・安心	⑨温熱環境 ⑤外皮性能	3.0	0.38	-	-	-		
3	ゾーン別制御性	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.06	-	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	-	-	-		
2.3 空調方式				1.0	0.30	-	-	-		
3 光・視環境				3.5	0.25	-	-	3.5		
3.1 昼光利用				4.2	0.30	-	-	-		
1	昼光率	快適・働きやすさ	⑩光環境	5.0	0.60	-	-	-		
2	方位別開口	快適・働きやすさ	⑩光環境	-	-	-	-	-		
3	昼光利用設備	快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.40	-	-	-		
3.2 グレア対策				3.0	0.26	-	-	-		
1	昼光制御	快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	1.00	-	-	-		
3.3 照度				4.0	0.16	-	-	-		
3.4 照明制御				3.0	0.28	-	-	-		
4 空気環境				3.7	0.25	-	-	3.7		
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-	-		
1	化学汚染物質	快適・働きやすさ	⑪空気環境	4.0	1.00	-	-	-		
4.2 換気				3.0	0.30	-	-	-		
1	換気量	快適・働きやすさ	⑪空気環境	3.0	0.33	-	-	-		
2	自然換気性能	快適・働きやすさ	⑪空気環境	5.0	0.33	-	-	-		
3	取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ	⑪空気環境	1.0	0.33	-	-	-		
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-	-		
1	CO <sub>2</sub> の監視	快適・働きやすさ	⑪空気環境	3.0	0.50	-	-	-		
2	喫煙の制御	快適・働きやすさ	⑪空気環境	5.0	0.50	-	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.1		
1 機能性				3.4	0.40	-	-	3.4		
1.1 機能性・使いやすさ				2.9	0.40	-	-	-		
1	広さ・収納性	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.01	-	-	-		
2	高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ	⑫機能性	1.0	0.01	-	-	-		
3	バリアフリー計画	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.98	-	-	-		
1.2 心理性・快適性				3.5	0.30	-	-	-		
1	広さ感・景観	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.43	-	-	-		
2	リフレッシュスペース	快適・働きやすさ	⑫機能性	5.0	0.01	-	-	-		
3	内装計画	快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.56	-	-	-		
1.3 維持管理				4.0	0.30	-	-	-		
1	維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.50	-	-	-		
2	維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.50	-	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30	-	-	3.1		
2.1 耐震・免震				3.0	0.50	-	-	-		
1	耐震性	防災	⑬耐震・免震	3.0	0.80	-	-	-		
2	免震・制振性能	防災	⑬耐震・免震	3.0	0.20	-	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30	-	-	-		
1	躯体材料の耐用年数	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-		
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-		
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.10	-	-	-		
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-	-		
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-		
6	主要設備機器の更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-		
2.4 信頼性				3.2	0.20	-	-	-		
1	空調・換気設備	防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-		
2	給排水・衛生設備	防災	⑰信頼性	4.0	0.20	-	-	-		
3	電気設備	防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-		
4	機械・配管支持方法	防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-		
5	通信・情報設備	防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-		
3 対応性・更新性				2.9	0.30	-	-	2.9		
3.1 空間のゆとり				2.4	0.30	-	-	-		
1	階高のゆとり			2.0	0.52	-	-	-		
2	空間の形状・自由さ			3.0	0.48	-	-	-		
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	-	-	-		
3.3 設備の更新性				3.2	0.40	-	-	-		
1	空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	-		
2	給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	-		
3	電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	-		
4	通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	-		
5	設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	-		
6	バックアップスペースの確保			4.0	0.20	-	-	-		



CASBEE横浜2017年版v.1.7  
上菅田笹の丘小学校

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目	重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
	<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数		
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	3.7	
1 生物環境の保全と創出	地域・まちづくり	⑧生物環境の保全と創出	4.0	0.30	-	-	4.0	
2 まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり	⑨まちなみ・景観への配慮	3.0	0.40	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30	-	-	4.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり	⑩地域性への配慮	5.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ	⑭敷地内温熱環境の向上	4.0	0.50	-	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	3.5	
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	3.5	
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネルギー性能	①建物の熱負荷抑制	5.0	0.20	-	-	5.0	
2 自然エネルギー利用	省エネルギー性能	②自然エネルギー利用	2.3	0.10	-	-	2.3	
3 設備システムの高効率化	省エネルギー性能	③設備システムの高効率化	3.4	0.50	-	-	3.4	
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0	
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	-	
	4.1 モニタリング	省エネルギー性能	3.0	0.50	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	3.0	0.50	-	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	省エネルギー性能	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	-	-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	3.7	
1 水資源保護			3.8	0.20	-	-	3.8	
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60	-	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無		4.0	0.70	-	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.60	-	-	3.6	
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			5.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.20	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.0	0.20	-	-	4.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用			4.0	0.30	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	-	
	1 消火剤		-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)		5.0	0.50	-	-	-	
	3 冷媒		3.0	0.50	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	3.2	
1 地球温暖化への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5	
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	-	
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	-	
	1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-	
	3 交通負荷抑制		4.0	0.25	-	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-	
	1 騒音		3.0	1.00	-	-	-	
	2 振動		-	-	-	-	-	
	3 悪臭		-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	-	
	1 風害の抑制		3.0	0.62	-	-	-	
	2 砂塵の抑制		3.0	0.17	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制		3.0	0.22	-	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		4.0	0.70	-	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-	
<b>上記以外の重点項目</b>				-	-	-	-	
<b>&lt;事務用途&gt;</b>				-	-	-	-	
知的生産性向上への取組	快適・働きやすさ	⑬知的生産性向上への取組	3.0	-	-	-	-	
<b>&lt;住宅用途&gt;</b>				-	-	-	-	
<b>健康と安心</b>				-	-	-	-	
1 化学汚染物質の対策	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-	-	
2 適切な換気計画	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-	-	
3 結露・カビ対策	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-	-	
4 犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心	⑦防犯対策	-	-	-	-	-	